1. **件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第 109 回）に係る面談**
2. **日時：令和 5 年 9 月 20 日（水）13:30～17:00**
3. **場所：原子力規制庁 6 階会議室**
4. **出席者**

原子力規制庁

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

岩永室長、澁谷企画調査官、正岡企画調査官、大辻管理官補佐、佐藤室長補佐、石井安全審査官、元嶋専門職、髙橋係員、植木技術参与

森審査班長（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所（テレビ会議システムによる出席）

小林所長

東京電力ホールディングス株式会社　福島第一廃炉推進カンパニー

本社　３名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力発電所　１０名（テレビ会議システムによる出席）

5. **要旨**

- 原子力規制庁は、東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、次回（第 109 回）特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）の議題に関し、資料に基づき主に以下について説明を受けた。
  - ✓ ALPS 処理水海洋放出の進捗状況
  - ✓ 1 号機 PCV 内ペデスタルの状況を踏まえた対応状況
  - ✓ ALPS スラリー脱水設備に関する検討状況
  - ✓ 福島第一原子力発電所地下水対策について
  - ✓ 1/2 号機排気筒ドレンサンプピットの対応状況について
  - ✓ 2022 年 3 月 16 日に発生した地震に対する耐震評価結果、詳細点検結果について
- 原子力規制庁は、上記の内容を確認するとともに、以下のとおりコメントを行った。

【ALPS 処理水海洋放出の進捗状況】

- ➢ 第 2 段階の放出に係る C 群の分析結果についても、当日の検討会で説明するように資料に加えること。

【1 号機 PCV 内ペデスタルの状況を踏まえた対応状況】

- ➢ 本年 9 月 14 日に実施した面談における確認事項についても、引き続き、資料への反映を進めていくこと。
- ➢ RPV, PCV への構造上の影響評価とは別に、仮に地震による RPV の転倒や落下等に伴って PCV が原子炉建屋に衝突するケースを考えた場合に、原子炉建屋への影響を簡易的な計算等により、どの程度定量化できるか示すこと。

- これまでの構造上の影響の検討（３）とは別に、1 号機使用済燃料プールに保管されている燃料集合体の水位低下時の温度評価及び線量影響を示すこと。

【ALPS スラリー脱水設備に関する検討状況】

- ALPS スラリー脱水設備については、東京電力において設計の見直しが行われていることから審査を中断しているが、そのような状況の中で次回検討会において同設備に係る内容を議論するに当たっては、その全体像を整理した上で、今後技術会合で議論したい内容を具体的に示すこと。
- ALPS スラリーの固化方針に関して脱水処理の固化処理に対する影響を示すこと。

【福島第一原子力発電所地下水対策について】

- 震災直後に漏洩したと考えている汚染土壌について、凍土壁を考慮せずウェルポイントのみの運用になった際の影響について説明すること。

- 東京電力から、原子力規制庁からのコメントについて検討の上、検討会に向けて対応が必要なものについては、適切に対応する旨回答があった。

6. 資料

- ALPS 処理水海洋放出の状況について
- 1 号機 ペデスタルの状況を踏まえた今後の対応に関する指示への対応状況について
- ALPS スラリー安定化処理設備設置における検討状況と関連する技術的課題
- 汚染水対策の現況について
- 1/2 号機排気筒ドレンサンプピットの対応状況について
- 2022 年 3 月 16 日に発生した地震に対する耐震評価結果、詳細点検結果について